

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マルイ上井店	階数	地上1F
建設地	鳥取県倉吉市伊木254-1	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	480 人
気候区分		年間使用時間	4,015 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 0.0	評価の実施日	2014年8月1日
敷地面積	5,891 m <sup>2</sup>	作成者	沖本 陽平
建築面積	2,752 m <sup>2</sup>	確認日	2014年8月20日
延床面積	2,612 m <sup>2</sup>	確認者	沖本 陽平



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.2</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>-46 0 46 92 138 184 230 276 322 368 414 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.8**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>Q1のスコア = 2.8</p>	<p>Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3のスコア = 2.3</p>

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 3.6</p>	<p>LR2のスコア = 3.3</p>	<p>LR3のスコア = 3.6</p>

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>建物内外に対して、条例・基準法等の必要条件を満足するようにして計画した。</p>		0
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>ビル用マルチエアコンによるゾーン別(店舗、作業室、後方諸室)による個別空調が可能である。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>機能及び信頼性を考慮した維持管理が行える。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>3%の緑化面積を有し、出来る限り敷地全体にわたっての緑化に努めた。また、設備スペースを屋根上へ設置し、周囲環境及び景観への配慮を行った。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>省エネルギー法において性能基準を満たすように配慮した。</p> <p>また、各種エネルギーのモニタリングを行い、エネルギーの効率的運用に配慮した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>部材の再利用可能性向上への取組として、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっており、解体・改修の際に、容易にそれぞれを取り外す事ができるように配慮した。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>地域環境への配慮及び地域インフラへの低減。燃焼機器を使用せず、屋外空間に対して大気汚染物質を発生しないように配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される